

私たちの美術館

北九州市立美術館

文部省特選



● カラー20分 | ￥130,000

市民と美術館との結びつきを描く

—月刊「社会教育」誌評より

この美術館は、まだ開館後二年にしかならない。しかし、そのいき方には注目してよいものがあり、この映画は、それを映像的に提案したという意味において理解されてよいだろう。

この美術館の活動が美術に深い関心をよせる婦人達の要求に応えながら、しかもその人々の社会的活動の場を提供し、しかもそれに依拠しつつ館の活動を市民の中に根づかせようとしている状況など、美術館のいわば見えない部分についての実践の方にも多くの注意が向けられている。

これから先、どのように美術館が社会教育の面で活動していくか、いきうるか、それは活動の進め方にかかわっているわけで、この映画は、職員にとって、また一般市民にとって参考となることが多いだろう。

□利用対象

- 中学高校生、青年、成人
- 社会教育指導者並びに関係者
- 地域文化サークル、自主学习グループ

□用途 社会教育施設等（文化施設）

地域社会生活（奉仕活動）

□利用方法

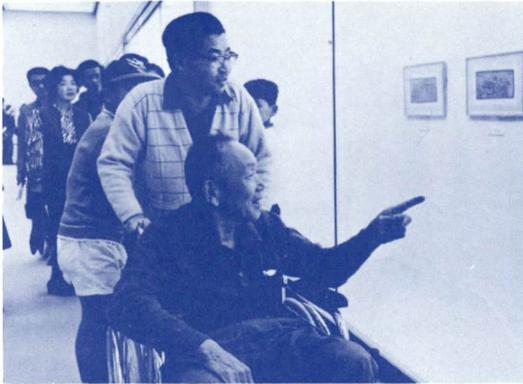
- 学級講座における学習課題「新しい美術館の姿とその活動」「地域文化活動としての美術ボランティア」等の教材
- 集会学習—文化団体、社会教育団体等におけるリーダー研修会、文化講演会などの教材（学習資料）。
- 映画会—「新作短篇映画発表会（鑑賞会）などに上映して市民の教養に資するとともに関係者の利用をすすめる。

製作

株式会社

桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダードビルTEL(342)5768



身障者などへの配慮

□映画のあらすじ

文化の砂漠とさえいわれた北九州市に、すばらしい美術館が誕生した。市の中央高見丘陵の地形を巧みに生かし、丘の上から鳥の飛び立つ姿の建物。内部の階段は回廊となり、周辺の風景と建築美をパノラマの如く展開してみせている。玄関ホール東側に2つの展示室があり、外光を取入れた明るさは、従来の美術館の印象を一変する。身障者などへの特別な配慮がなされるとともに、広く市民の美術鑑賞に開かれた場になっている。

団体入場者には鑑賞に先きだって、学芸員の説明が行われ、予備知識をもって見ていくようになっている。館内随所にロビーがあり、ブラウジング・ルームでは、休憩をかねて美術雑誌の閲覧ができる。また、研究者向けにはアート・ライブラリーがあり、休憩と軽食を兼ね、展望のきくレストランもある。

この美術館の美術ボランティアは日本でも大変珍しい活動である。3人の子持ちの塚本さんはその一人で、館内で開かれた「美術ボランティア講座」を受けて、週2回交替で常設展示室の作品解説に当たっている。美術好きの父の影響で、このボランティアの道に入った芳賀さんもその仲間。こういう人が多勢養成されると、地域社会にあって美術情報の提供者にもなり、市民と美術館とを結ぶパイプ役として、大きなプラスになるものと注目されている。

尚、事業として「土曜講座」「講演会」「絵画・工芸実技講座」「銅版画教室」などが催される。

市民生活に密着し、生きた美術館としての建設当初のねらいは貫かれ、優れた作品に対する取蔵車としての役割をもはたしつつ、市民の教養の場、レクリエーションの場として、今後のはたす役割に大きな期待がもたれている。

□話し合い学習の要点

1. 話し合いの目標として、この映画を通して次の2点について理解を深め、今後の課題を発見していきたい。
 - (1) 百万市民の心のうらおいの源泉として建設されたこの「私たちの美術館」の施設面での特長は何か。それが市民とのかかわりにどんな働きをしているか。
 - (2) 活動としての特長は何か。それは市民の文化活動としてどんな意味を持っているのか。それを学習者のおかれている立場(条件)においてどう転移できるか。

2. 話し合いの要点

- (1) 新しい美術館に前後して建設された文化施設それぞれの役割と市民とのかかわりは何か。
- (2) 美術館の設計として、特に〈新しさ〉を感じさせる点はどこか。それが市民の意識や活動にどんな影響を与え、意味を持っているだろうか。
- (3) 学芸員の指導は中高校生の教科の校外学習としての意味もあを、自主学习グループが地域に漸次育っている折柄、重要な役割をはたしている。
- (4) アートライブラリーは市民の学習要求と教養にどんな役割をはたすだろうか。
- (5) 美術ボランティアの養成と活動についてどんな感想か。市民の文化教養と人間生活・家庭教育・生涯学習の点からも考えていきたい。
- (6) 事業として行われる各種講座教室について、社会教育施設相互の連絡、協力はどのようにしていくことが、それぞれの活動をより活発にするだろうか。
- (7) リビング・ミュージアムの精神をわが地域に生かすとどう構想されるか、具体策を考えよう。

□製作スタッフ

製作	村山 英治
脚本	村山 正実
演出	村山 正実
撮影	加藤 和郎 村山 和雄
照明	本橋 俊男
録音	朝日 録音
現像	ソニーPCL

美術シリーズ

絵	巻	カラー28分
色	鍋島	¥130,000
明治の洋風建築		カラー29分
石の文化		¥130,000
		カラー28分
		¥130,000
		カラー29分
		¥130,000

社会教育シリーズ

婦人のボランティア活動	カラー30分
	¥135,000
婦人学級	カラー29分
	¥135,000
家族の構図	カラー31分
	¥145,000
ふるさとに生きる母たち	カラー31分
	¥135,000